

---

# 東方妄想録

カケル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方妄想録

### 【Nコード】

N9445Z

### 【作者名】

カケル

### 【あらすじ】

さあ、此処は何処だろう、何故こんなところにいるのだろう。まあ分からない事はしようがない、考える程謎が深まる。夢か現実か分からなければ考える必要は無い。今を楽しく過ごせれば……

うわぁ・・・夢か現実かわからん

ヒュオオオオオオオオ

少し生暖かい風が髪を靡いた。

サワサワと揺れる草花、そして土の匂い・・・ん？風？草花？土の匂い？あんれえ可笑しいなあ此処は何処だ？何故外にいる。

「ここは何処？私は誰？」

かわたかける

自分は誰だ、俺は・・・川田翔 年齢17歳！男で何処にでもいそうな平凡で普通の男子高校生だよ・・・待て、こんな可笑しな事が普通に平凡な男子高校生に起きる筈がない！

これはもしかして「夢」なのか！？いや「夢」だとしたらかなりリアルな「夢」だな。

今、この現状を誰か説明をしてくれ・・・少し混乱している、家にいた筈だ！うんさつきまで家に・・・

確か9月で日曜日でパソコンをしていて腹が減ったからバイトしているラーメン屋に飯を食いに行こうとして・・・この先どうなったんだ？・・・もういいか、夢なら覚めるまでこの山らしき場所を散歩する、

夢じゃなければヤバイ、せめて人里に行かなければ。

「考えてても仕方が無い、その辺歩くか」

歩いても歩いても草や見たことのない花が咲いている、右を見れば木が大きく伸びている、左を見ても変わらん・・・此処は何と言う山だよお！精神がヤバイよお！一人は嫌だよお！叫ぼうかと思った。しかし腹が減った、あのゴツイ体格をしていて一見怖そうに見える店長だが凄く優しくバイト初日なんて無料でラーメン作ってくれてオマケまでしてくれた醤油ラーメンが恋しいよお・・・

少しずつ少しずつ怖くて一人は嫌だが前進する・・・あれ？あの建物見覚えがあるぞ、いやというか見覚えとかじゃなくて俺がバイ

トしているラーメン屋じゃん！！そしてあの独特な醤油ラーメンの匂い！

まさか！

「店長！？」

俺はガラガラと扉を開けたが店内は誰もいない、そして俺が「いつも」座る席に醤油ラーメンが置いてあった。

「これは・・・美味しそう！そしていただきます！」

ずるずる！とラーメンの汁と麺を同時に口に流し込んだ、あちゆい！とまでは熱くなかったが美味しかった、泣きそうになったがグツとこらえた。

食べ終えて店を出て歩いた、そしてふと思った、もしかして振り返れば店はなくなっていて俺は幻覚を見ているのではないのかと・・・

「あるわけ無いよねえ・・・」そう、店はなかった。跡形も。

もしかして自分は幻覚を見ているのでは？そう思った、そして想像したからこの店とラーメンは出現したのではないのか・・・そう思っただけを紛らわすしかなかった。いや、そうしないと精神が可笑しくなるそう思った。

想像すれば出現するのか・・・想像すれば・・・。

「建物と食品はおkだったから・・・」

好きなものは拳銃ですと友人に言っただけの事はある、そして今年の夏休み海外に行っただけのインストラクターをつけて撃ちまくった事がある、そしてバイト代が消滅した（笑）という訳でベレッタM92Fを想像して創造した。

「うん、出来た、重さ的にエアガンではないしモデルガンでもなさそう」

ズガン！！！！

そして躊躇なく木に向かって発砲した、木には少し掠ったくらいでまともに当たらなかった、思った、これはいい凄く楽しい、標的は今のところ木しかないが動物が出ればそれに向けて撃てばいい。

「けどマジで実銃を創造できるとは思わなかったなあ・・・そうだ

！」

さっきの様にM92は消えると思いはうり投げた　すると普通なら落ちたときに音がするはずだが「しなかった」と言う事はM92が消えたと言う事だ、大成 功

「んじゃ次はイサカM37を」

んむむむむ！と唸って想像した、ガチャ！という音が聞こえた、目の前にイサカM37が落ちてある。

またもや大 成 功！

「さっきのM92は弾が入ってたしこれは・・・」

ズダン！！やはりショットガンは反動が大きい、しかし散弾は発射された、木はものすごい勢いでえぐれていた

「パネエなあ」

少し驚いた、撃つたことはあるが当てたことがあるのは「的」だけだ、木に当てるのは初めてだ。

そして大体の銃を想像して創造する、これを繰り返して遊んだ。

ハンドガン

マグナム

サブマシンガン

ショットガン

ライフル

アサルトライフル

グレネードランチャー

ロケットランチャー

主に最後らへんの爆発物系はゲーム・テレビ・ネットで見たものを

想像して創造した、これまた大 成 功・・・しかし森が大変な事になった・・・主に最後の爆発物系でなんかごめんなんさい。

え？なんでランチャー撃てるかって？反動？気にしたら負けだよ！ふう、これはもう幻覚とその辺の類じゃねえだろう・・・うん能力だな俺の・・・潜在能力開花だぜヒヤッハー！

「これは『想像したものを想像する程度の能力』だろう」  
なんで程度が付くって？俺が東方が好きだからだよ！

まあそんな事は置いておこう、武器が消えたって事は・・・

「『想像したものを創造したり消したりする程度の能力』・・・じやねえだろうなあ」

これまた長い能力名なこと（笑）しかし便利だ、飯を創造して食うそして少し射撃して家（主に簡易的に住むために作られた）に帰って寝る毎日がこんな生活だ。

いやあく時間が流れるって凄く早く遅いものだとは知らなかった、ざっと100年はたった（笑）

この間に開花した能力が多数あった。

・はやさを変える程度の能力

この能力はある事がきっかけで開花した、よくわからん化け物追い回された時にアイツの動きが遅ければって思ったら遅くなっていた・

・・・スゴイ。

・重さを変える程度の能力

これはちょうどいい立地条件の土地があったがでかい石が邪魔でこんなもん軽かつたら簡単に持ち上がるのに！と思ったら急に軽くなつて風に吹き飛ばされていった（笑）

・物理的な攻撃は効かないと程度の能力

森で妖精にあつた、石を投げられたから逃げようとしたら横1m縦2m奥行き1.5m程の岩石を落とされた。そして走馬灯をみた、俺はこんな石は効かない効くわけがないと思つた瞬間・・・ゴシヤア！という気味の悪い音がした、頭潰れたのかと思つたら岩石が割れていた・・・うんスゲエさすが俺

ケド驚いた妖精が投げた石には当たり、痛かつた。ONとOFFが使い分けられるようになった。

・異能の力が効かない程度の能力

うん、これは幻想殺イマジンプレイヤーだよ鬼が戦い申し込んできて火をおこしてぶつけて来た、ビビツて右手突き出したら消滅した、マジで幻想殺だよ。これもONとOFFが可能、2回目は気が抜けて少し火傷したわ、けどもう治ったよ。

最後は少し使えるがそんなに使わない能力だ。

・修復する程度の能力

何故使えるのに使わないのかって？壊れても創造出来るからだよ！まあ火傷はこれで治したし・・・というか使える範囲があんまり分からない、人にあえるかなあ

うん、山を抜けた気もするし。

うわぁ・・・夢か現実かわからん(後書き)

誤字脱字などがあれば報告をお願いしたいです。

内容は何でもありでチート主人公です。

小説を書くのは初めてで、色々と心配はありますがこれからもよろしく願います。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9445z/>

---

東方妄想録

2011年12月29日15時48分発行